職場討議資料

２０２４年１１月２６日
ＪＲ東海労働組合中央本部

森下君の「メッセージ」に反論する

１１月２１日、名古屋地本・加藤正利君から森下君の「メッセージ」（別紙）が明らかにされた。加藤君は、この森下君の「メッセージ」に賛同し、ＪＲ東海労からの脱退を表明した。だが、この森下君の「メッセージ」は、書かれている内容とは裏腹に、ＪＲ東海労組合員には明らかにされていない（出来ない）。脱落者の間で密かに読みまわされ、脱落を正当化するための文書と思われる。この文書は、一見、自分たちの脱落を正当化し、さもさも正しいかのように書かれているが、内容は事実関係もネジ曲げたデタラメ極まりない文書である。だから、森下君は、私たちＪＲ東海労組合員の前に公然と公表できないのだ。

以下、森下君の「メッセージ」への具体的反論をする。

１．森下君は、**「東海労がこんな情けない組合になるとは夢にも思いませんでした。」**と主張し、**「自分が東海労を脱退して新しい組合を創ることになりました。」**と冒頭述べている。

森下君に問う。ＪＲ東海労のどこが“情けない”のか？ 具体的に明らかにして欲しい。確かにＪＲ東海労は、少人数になりなかなか会社に要求を認めさせ、具体的譲歩を実現することが出来ないのは事実だ。しかし、会社と面々相対しての直接的交渉や業務委員会だけでは要求が前進しないことから、例えば、第三者機関等、バックグランドをも活用した種々の創意工夫した活動を展開し闘ってきている。このような闘いにより、年休等の勤務問題、ボーナスカット攻撃への闘い等々で要求前進を実現してきている。そして会社は、このようなＪＲ東海労の闘いへの共感がユニオンに広がることを恐れるがゆえに、賃上げ、ボーナス等では十分ではないが、他社よりも高い回答をしているのではないか。森下君は、そのことを十分に知っているはずである。

また森下君は、**「自分が東海労を脱退して新しい組合を創ることになりました。」「多くの先輩たちが、共に立ち上がってくれました。」**と述べている。

だが森下君。自分が新しい組合を創ることを決意し、実行するなら**「創ることになりました。」**と、受動的(客観的)には言わない。**「創ることにしました。」**と、能動的表現となる。森下君は、新幹線地本ＯＢ会役員の先輩や、そして職場では薮君に(脱退の意思表示をしているメンバーからいえば、その役員歴からいって、本来なら、斎藤厚志君がリーダーとして行動すべきだと思うが、彼は狡知だから薮君の後ろからついて行っているのだろう。)段取りされ、彼らに突き動かされてＪＲ東海労破壊、新組合委員長の看板を背負わされたのであろう。そのことが**「なりました。」**と受動的表現に端的に示されている。ちなみに、小林昇君が１０月４日、新幹線地本伊藤委員長の「新しい組合を創る話しに加担しているのか？」の問いかけに、「加担していない。森下にもそのような（新しい組合を創る）力量はない。」と答えていることに、森下君主導でないことが端的に示されている。

２．ところで森下君は、「多くの先輩たちが、共に立ち上げってくれました。」と述べている。

要するに、新幹線地本ＯＢ会役員皆さんの「森下君を支える」といった言動や、「守るとすれば、それは森下でしかない。」と１２月末で退職であるにもかかわらず脱退を表明した木藤君のLINE 内容に示されるように、とにかく、“森下君を支える”を合言葉に、ＪＲ東海労を脱退する人数を出来るだけ集め新組合を創り、“森下君を委員長にすることが目標だけのＪＲ東海労脱退劇”なのである。だから、会社と闘う事などは一言も語られない。

そして、ＪＲ総連に新加盟組合として加入し、それを背景にしてＪＲ東海に労働協約を締結してもらい、森下君を新組合委員長でＪＲ総連の組合専従役員としてＪＲ総連に金銭的面倒を全面的に保障してもらう。そうすれば、森下君はＪＲ東海の職場で白い目で見られながら仕事をしなくても済む。以上が、会社とも背後で示し合わせた“森下君を支える”を大義名分にした、ＪＲ東海労組織破壊のシナリオである。

したがって木藤君のように、たとえ１２月末退職であろうと新組合結成時の数合わせの為、**「とにかく森下君を支える＝新組合結成を実現する」**を合言葉に、退職直前の者も掻き集められ、脱退させようとしている。ようするに、とにかく新組合を結成し森下委員長を実現する。後は、退職によって森下君だけになっても構わない。と考えているのだ。

３．森下君は、**「『脱退者』には誰もお話しに来ないのは？ どうした事なのでしょうか？」**と述べている。

森下君、大変申し訳ありませんでした。「脱退の理由を聞かせてほしい。」と話し合いを呼びかけているつもりでしたが、伝わっていなかったようです。

ＪＲ東海労は、森下君をはじめとする脱落希望者の皆さんに理由も聞かないで、その為の話し合いもしないで、脱退を黙認するつもりはけっしてありません。したがって、森下君をはじめとする脱落希望者の皆さんとはシッカリ話しをさせてもらいたいと思います。

森下君！ どうぞ私たちが話し合いを呼びかけた時、逃げないで応じて下さい。

ついでに言えば、「メール(伝言)送ったから見てくれ」と言ったことの何が問題なのか？

勤務中に「メール(伝言)を見ろ」と言ってるわけでもないし、ましてや脅しているわけでもない。それを“脅しだからやめてほしい”と主張するのは、脱退についての話し合いはしたくない、勘弁して欲しい。と言っていることの別表現であり“泣き言”でしかない。

４．森下君、忘れてもらっては困る。君がＪＳ労結成について、どのように発言していたのかを。

君は昨年１０月１９日、ＪＲ東海労のＪＳ労結成を巡っての全地本代表者会議に新幹線地本書記長として参加した。君はその会議で、君自身がどのように発言したのか忘れてしまったようだ。君はその会議で、**“本部要請（８/１８のＪＳ労結成延期）がある中で、８/１８に結成された理由、また加入者の名前を明らかにしない理由はわかった。”、“難しい状況の中で、ＪＳ労立ち上げは凄い。”、“問題が大きくなったのは、事前の意思疎通が十分出来ていなかったからだと思う。１番同士で話をやっていれば良かったと思う”**と発言し、**“ＪＳ労が「ＪＲ総連と共に」ということが確認できれば問題ない。”**と発言しているのだ。また君は、今年６月９日に開催した東海労本部大会にも代議員として出席している。そして、ＪＳ労結成等に関して反対の発言は一切していない。

以上のことを君はいったいどう釈明するのだ？ ウソはつかない。これが役員をやる者の条件である。それとも、君は津崎近畿地協議長と同じなのか？

また、森下君は昨年１２月１４日のＪＲ東海労臨時大会におけるＪＲ総連山口委員長や熊谷書記長へのヤジを問題にし、ＪＲ東海労がＪＲ総連見解等は明らかにせず、組合員には都合の良い情報だけ伝え、都合が悪い情報は遮断しているかのような主張をしている。

だが森下君！ デタラメを言うのはやめたまえ。ＪＲ東海労が何を組合員に隠していたのだ？具体的に明らかにしてもらいたい。君も参加した昨年１０月１９日の全地本代表者会議では、ＪＲ総連見解が発出されていることも照会されて議論をし、君も発言している。それを知らなかったとは言わせない。

また、昨年１２月１４日のＪＲ東海労臨時大会には君は参加していない。だから君は都合よく聞いているのかも知れないが、この臨時大会に参加した山口委員長や熊谷書記長がどんな発言をしたのかだ。山口委員長は、十分な事実確認もしないまま、近畿地協津崎議長のウソの報告書を基にして、東海労新幹線関西地本の仲間を組織破壊者と発言したのだ。だからそれに対し、新幹線地本・土川代議員をはじめ、参加していた代議員、傍聴者から「ＪＲ東海労の仲間を組織破壊者呼ばわりするのはやめてほしい。」と撤回と抗議の発言とヤジが発せられたのである。

森下君は、ＪＲ東海労の仲間が、組合員が組織破壊者と言われることに対し、抗議と撤回を求める声を発したことのどこが問題だと言うのだ？

５．森下君は、**「継続組合員は一般市民であり、何が出来るのか？」** と主張する。

確かに継続組合員は、職場（生産点）で会社と直接対峙しての活動は出来ない。しかし、それ以外の組合活動は森下君と同様に活動できる。そして、森下君が頼りにしているＪＲ総連（役員）も、その意味では継続組合員と同じである。ただ、ＪＲ総連と継続組合員の違いがあるとすれば、ＪＲ総連は、森下君に飲ませ喰わせしてくれ、財政的バックアップして森下君を専従役員にしてくれ、森下君が東海会社の職場で働き、組織破壊者の醜い姿を晒さなくてもすむようにしてくれることだ。

まさか森下君は、ＪＲ総連から専従役員にしてもらい、ＪＲ東海で働くことも活動することもしなくてよい。そのような生活に憧れて、ＪＲ東海労破壊・新組合結成の神輿に乗ったのではないと思うが…。

６．最後に森下君は、**「私と共に立ち上がってくれた仲間たちは、自分の利益や利害を投げ捨てている。」**と主張する。立派だ！！ 本当にそうなら敬意を表する。

だが森下君。本当に“自分の利益や利害を投げ捨てる”、そこまでの心意気があるなら何故、東海労組合員として闘わないのか？ そして、関連会社で働く労働者の皆さんとスクラムを組むことを否定するのか？

森下君！ 自らが闘いたくないことを隠し、それを正当化したい気持ちはわからなくはない。しかし、お願いである。闘わない（闘いたくない）自分を正当化するため、闘う者の足を引っ張ることは止めてほしい。

【森下暢紀君が発したとされているメッセージ】

JR 東海労は「JR 総連からの組織破壊攻撃と組織脱落者を断固許さない！」とか、「新労組結成」とか情報を発行しています。

私は東海ユニオンから JR 東海労に加入しました。その東海労がこんな情けない組合になるとは夢にも思いませんでした。

そして、自分が東海労を脱退して新しい組合を創ることになりました。
多くの先輩たちが、共に立ち上がってくれました。

「断固許さない！」と威勢の良い言葉を発してますが「脱落者」には誰もお話しに来ないのは？ どうした事なのでしょうか？

杉澤さんが勤務中の仲間に「メール送ったから見ろよ」と言って来ました。

誰かを敵にして、自分たちの正当性を押し出すのはやめましょう。

そして最低限の常識として、勤務中の仲間への脅しはやめましょう。

本部委員長が JS 労結成延期要請を拒否されたにも関わらず、本部中執で容認。「二重加盟」問題も議論せず「関連労働者の組織拡大だ」と評価する。

当事者である JR 東海労自身が、口では「指導します」と言いながら、関西の暴走を容認し、追従して来た。東海労本部の当事者意識の欠如。指導放棄の結果。JR 総連が矢面になっただけのことでしょう。

東海労臨時大会（2023 年 12 月 14 日）における、JR 総連山口委員長や熊谷書記長への汚いヤジを聞いて「異様な雰囲気だ、これが労働組合なのか？」と率直に感じた仲間たちもいます。そして職場では、JR 総連見解も明らかにせず、何がなんだか分からない状態だった。自分たちの都合の良い情報だけを伝え、あとは遮断する。

あなたたちは、私に言いました。「継続組合員がお前を支える」と？ OB の皆さんが支えてくれるはありがたいことです。しかし、あなたたちは組合員ではありません。一般市民なのです。何が出来るのでしょうか？

そしてあなたたちは、私と共に立ち上がってくれた仲間たちに「もう何ヶ月で退職、スト生活資金８万円を捨てるのか」と言う。

そうです。私と共に立ち上がってくれた仲間たちは、自分の利益や利害を投げ捨ています。
あなたちは JR 東海労の仲間の涙を忘れていませんか！

森下暢紀

以上